

日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

No.67

2018年11月1日
発行

発行人：原田正樹 編集委員：佐藤 陽 秋貞由美子 熊谷紀良
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3番27号 口リ工市ヶ谷3階
TEL.03-5227-7101 FAX.03-5227-7102 Eメール jimukyoku@jaass.jp

時代の転換期に福祉教育・ボランティア学習の 未来を問う大会に！

第24回あいち・なごや大会実行委員会 委員長 **原田正樹**（日本福祉大学）

隅々まで行き届いた配慮のもと開催された昨年の長野大会の後を受けて、第24回大会をあいち・なごやで開催いたします。毎月、県内の会員、愛知県社協、名古屋市社協はじめ市町社協、NPO、福祉施設職員等で実行委員会を組織し準備をすすめております。

2009年の第15回大会も、愛知で開催しました。そのときのテーマは「共生文化創造への途」でした。共に生きるということは制度やサービスではなく、私たちの生活のなかに「文化」として創出していかねばならないと考えました。しかしそれは長い道程です。あれから約10年経ち、地域共生社会の実現にむけて、様々な取り組みが始まっています。

本学会が提起してきた「共生文化」というキーワードも、様々なところで活用されるようになってきました。しかし、ひるがえって今日の社会福祉が直面している課題の厳しさと重さを省みるならば、もっと私たちは「共生文化」の本質を問い、このことを実現していくための方法論を開発し、実践を広げていかなければなりません。

包摂型社会をめざすためには、社会的排除の現実に目を向けなければなりません。多様性を認め合うことは簡単なことではありません。どうしたらノーマライゼーションを具現化できるかを真剣に考えて一人ひとりが行動を起こさない限り、共生社会は実現できません。そのときに重要になるのは私たちの「学び」です。

福祉教育・ボランティア学習の実践は、この厳しい状況を切り拓く可能性があります。私たちは、これまで以上に創意に満ちた研究活動を積極的に探求し、福祉教育・ボランティア学習の新たなステージを目指さねばなりません。あいち・なごや大会の開催を通して、福祉教育・ボランティア学習の次の時代にむけて、愛知のもとで多くの会員の皆様と話し合っていきたいと思っております。一人でも多くの会員のご参加を、実行委員一同、お待ちしております。